

1 事業のねらい

台風による倒木被害のあった森の再生のための栗の木の植樹や、木育プログラムを体験することにより、森林の大切さやそれを守る取り組みの重要性について体験的に学ぶ。

民間企業や地域団体との連携により、専門性の高い学びを提供する。

2 事業の概要

- 期日 R5.6.17(土) 日帰り
- 対象 どなたでも（小学生以下は保護者同伴） 40人
- 人数 40名（先着20名で募集。応募が多く40名に増員したが、募集途中で定員になり締め切り）
- 場所 森町赤井川地区マテリアル育ちの森
- 連携 三菱マテリアル株式会社（共催）
- 協力 渡島総合振興局、森町役場、森町林業グループ
NPO 法人森の仲間たち

3 プログラム

	09:30	10:00	10:10	10:30		10:55	11:15	11:50	12:00
6/17 (土)	集合受付	会場へ移動	開会式	植樹方法説明	植樹	木育1 間伐理解の紙芝居	木育2 間伐材玉切り コースター作り	閉会式	解散移動

4 ねらいを達成するための活動の工夫

- 森林の大切さを体験とわかりやすく工夫したプログラムで学ぶ
 - ・木の育ちのスタートとなる植林と、森を守る間伐の取組をわかりやすく学ぶ紙芝居、間伐材を手鋸で切る体験を組み合わせ、適度な負荷を感じながらその大変さと重要性を学べるようにした。
- 民間企業や地域の団体との連携による相乗効果と質の深化
 - ・民間・団体・ネイパル森が持つそれぞれの専門性やノウハウ、財源等を持ち寄り、互いに、少ない負担で、より質の高い事業となるよう取り組んだ。特に、ネイパル森の広報・集客能力は民間にとって大きな魅力となった。



心を込めて植樹する親子



手鋸での玉切りによるコースター作り

5 事業の評価

■参加者アンケートから

- なかなか体験できない「植林」を行うことができたことに対する評価が多かったことに加え、体力的に大変な作業である「植林」を行う我が子の姿に感動する親の声が多かった。
- 渡島総合振興局職員が行った紙芝居で、間伐の意義や重要性を、人参の畑作に例えて説明した内容がとてもわかりやすいという感想が多かった。
- 間伐材の玉切りを手鋸で行うことにより、樹種による硬さの違いに気づく感想が得られた。
- 植えた栗の木の成長を確認したいという声も多い。今後の事業内容に効果的に組み込めるかの検討材料とする。

6 ねらいを踏まえた成果と課題

- 林業という難しい題材を体験的に学ぶことにより、小さな子どもも楽しく参加することができた。
- 民間企業や団体との連携により、苗木代等の事業経費を抑えながら、団体の持つ専門性を活かした質の高い学びを提供することができた。
- 当施設の持つ効果的な創作活動等を組み込んだ事業内容も検討したが、共催先との調整に時間を要し、十分なアプローチができなかった。



企画のポイント

- 植樹・間伐の紙芝居・間伐材の玉切りと、体験を重視した流れのあるプログラム内容の設定。
- 企業や地域団体との連携により、経費を抑えながら質の高い体験機会を提供する取組。